

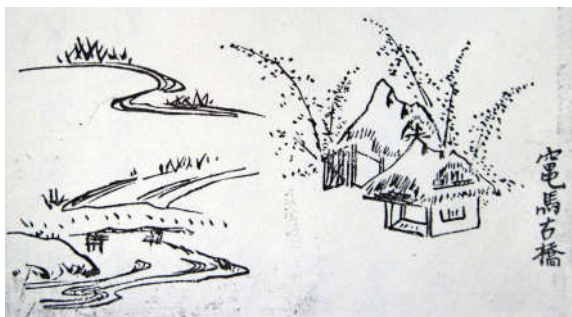
「柏崎の橋」

1 こおろぎ 蟋蟀橋

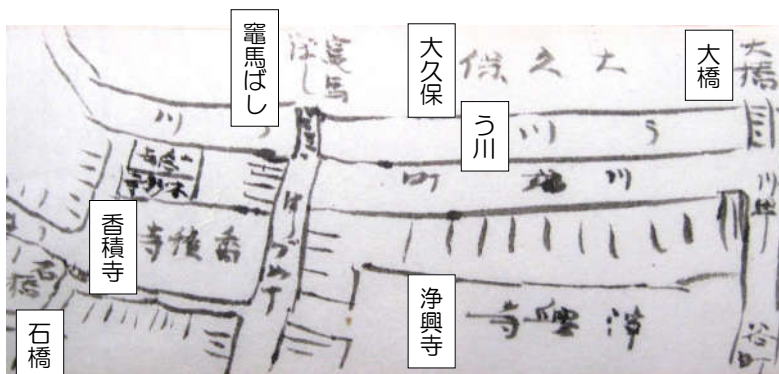
その昔、「蟋蟀橋」という橋があったという。この橋は「竈馬橋」「轟橋」「蜻蛉橋」「加計呂布橋」などとも呼ばれていたとされる。なぜいくつも呼び名があるのか、すべて同じ橋のことなのかわからないが、文献では、鶴川にほど近い2つの橋を蟋蟀橋としている。

そのひとつは、激特工事前の水道橋付近に架かっていた。大正4年出版の「柏崎」では蟋蟀橋を次のように紹介している。「【こほろぎ橋】柏崎町と大窪村との間に架せる大橋を云えしが貞享年間一町二十五間川下なる現今の地へこれに移し 名を大橋と改めたり」 ※大橋の位置は鶴川橋にあたる。

もうひとつの場所は西本町の香積寺東側である。昭和3年5月6日の越後タイムスに掲載された「柏崎殿之遺跡 蟋蟀橋」という記事では、蟋蟀橋を、「(柏崎勝長公の)館跡なる香積寺表門前の傍らに小路有り、之より聊いささかなる江溝に渡せる小石橋に、其の名のみぞ残れり」と解説している。



「小太郎 柏崎四十八題」の竈馬古橋



「柏崎文庫」記載のこおろぎ橋近辺図（現在の西本町3丁目）

また、この橋には柏崎勝長公に関連した伝説が残っている。

- 橋のところで勝長公の米を積んだ船が船員もろとも沈没した。その亡霊の祟りにより、橋の上で転んだり橋を修復した人には不幸が訪れるという
- 勝長公の死を知った奥方が、錯乱して館を飛び出しこの橋で転んだため、転出(ころびで)橋、狂出(くるいで)橋と呼ばれるようになった。

なお、名前の由来については、橋に蟋蟀の形の彫付けがあったため、との説もある。

現在、蟋蟀橋の痕跡は全く残っておらず、前述の橋を本当に蟋蟀橋と呼んでいたかもわからない。当館の中村文庫に「蟋蟀橋杭花台」というものを所蔵しているが、今回紹介した蟋蟀橋と関係があるものなのかよくわからない。わずかに「小太郎 柏崎四十八題」に、在りし日のものと思しき風景画が掲載されているのみである。

●参考にした本

松山雍二「蟋蟀橋とその伝説」高志路 第73号（昭和16年1月発行）

黒岡栖策「柏崎殿之遺蹟 蟋蟀橋 趣味の謡曲柏崎（6）」越後タイムス 昭和3年5月6日

「刈羽郡旧蹟誌」山田八十八郎 編（224 ヤマ）

「柏崎市伝説集」柏崎市教育委員会 編（388 Kキヨ）

「柏崎」中村葉月 西巻三四郎 著（224 ナカ）

「柏崎文庫」第12巻 関甲子次郎 著（080 セキ）